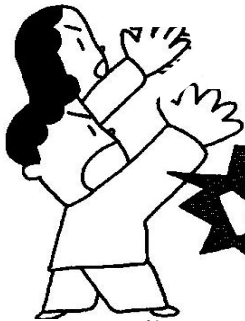




## 夏季手当 3.0ヵ月要求

# ちょっと待った!!

# 「昨年夏を下回る考えは認められない!!」



本部は6月10日、第3回目の団体交渉を開催し、「2022年夏季手当に関する申し入れ（国労闘申11号）」について、貨物会社は、「2022年3月期における決算、現時点における収入動向について説明し、「昨年冬の水準は何とか確保したい」と議論を重ねて検討している。」とする考え方を明らかにしました。

本部は、会社の考え方に対し、昨年の低い水準を持ち出してきたことは、言い換えれば、「昨年夏よりも低い」ということであり、原因が明らかとなつている減収を社員に犠牲を押し付け、人件費削減を狙つたものと言わざるを得ないと指摘してきました。

### 期末手当は生活給!!

### 他の労働組合も「2.9ヵ月」以上要求!!

他の労働組合についても、「2.9ヵ月」以上を要求している中で、期末手当は、「赤字の補填」など、切実で無くてはならない「生活給」であることの表れであり、貨物会社の「昨年冬の水準は何とか確保したい」との考え方は、物価上昇で生活がさらに厳しい中で到底、認められないと抗議し、社員の願いに応えることを求めています。

### 設備投資は必ず行ひ一方で、社員的生活は置き去り。

2022年3月期決算での単体▲12億円、連結2億円、今年度スタートから19億3000万円の減収を前面に主張し、会社としては「業績給の要素が強い」としています。しかし、厳しいとしている中でも、設備投資は何があるとも毎年400億円は行つていくことを明らかにしており、設備投資は行ひが人件費は削減するといった社員的生活は置き去りにする貨物会社の姿勢が明らかとなっています。

### 「業績給」より賃上げが・・・赤字でも構わず削減しよう。

「業績給」との考えを主張していますが、2009年のリーマンショック時には、3年連続の赤字は避けたいとし、前年から▲0.725ヵ月削減し、以降、黒字を確保しています。また、2013年には3年連続で黒字を確保している中でも前年から▲0.8ヵ月削減し、年間2.4ヵ月と社員へ犠牲を押し付けています。

2013年は人件費を32億円削減し、経常利益34億円を確保しました。以降、2017年の最高益を更新するまで、毎年当初の事業計画数値を上回っています。また利益剰余金も2013年以降、300億円も積み上げています。

### 会社都合の理屈はもういっせよ。国労といっせよ声を上げよう。

業績の反映とする会社の考えは、この間の社員犠牲からすれば信用できるものではなく、その時々で都合の良い理屈を並べているのが実態です。

「2022年夏季手当獲得」に向け、私たち国鉄労働組合とともに、「期末手当は生活給だ。」「低額回答は許さない。」と共に声をあげましょう。

